

5-11 東海地方におけるラドン観測 (IX)

Radon Observations in the Tokai District (IX)

東京大学 理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

前報¹⁾にひきつづき、東海地方における地下水中のラドン濃度の連続観測結果 (1989年11月～1990年11月) を報告する。

観測点は、第1図に示す竜洋 (RYO)、吉田 (YSD)、御前崎 (OMZ) の3地点である。第2図は各観測点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度 (積算値) の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。

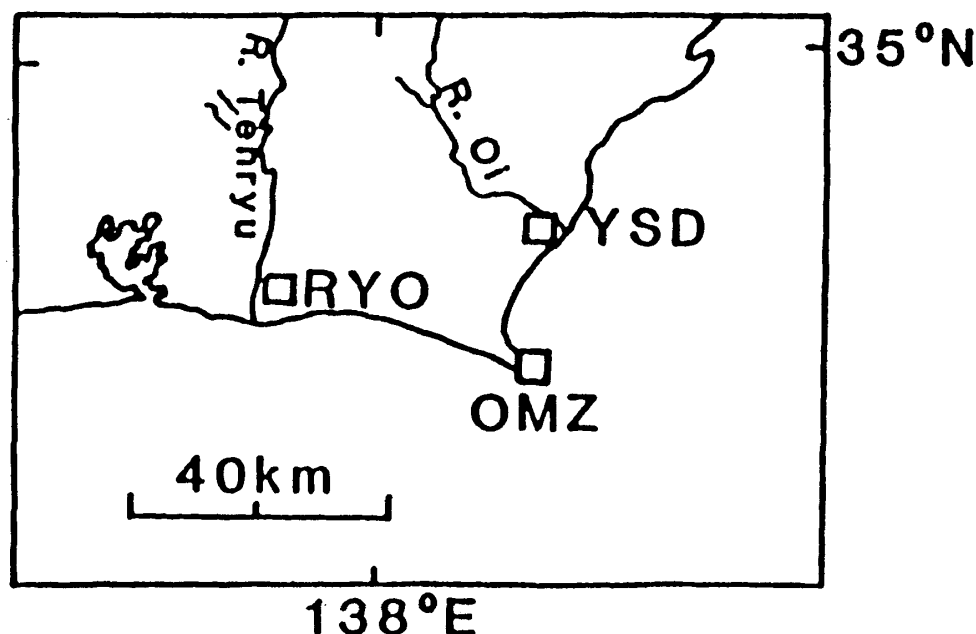
OMZ では2月20日の伊豆大島近海地震 (M6.5) に対するコサイスミックなラドン濃度上昇がみられた。この地震に対しては伊豆半島の観測点 (SKE) でも似たようなラドン濃度変化が観測されている。

YSD では昨年にひきつづき、年間を通じてラドン濃度が極めて一定である。

RYO では例年にみられる1週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響と解釈される。観測を中断した後 (3月、5月、7月)、ラドン濃度が高くなる傾向がみられる。これは揚水を中断すると、帯水層のラドン濃度が増大するためと思われる。

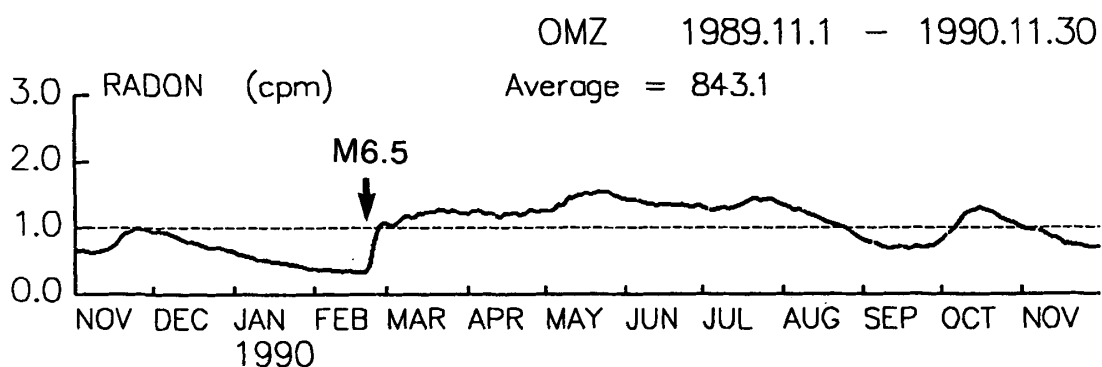
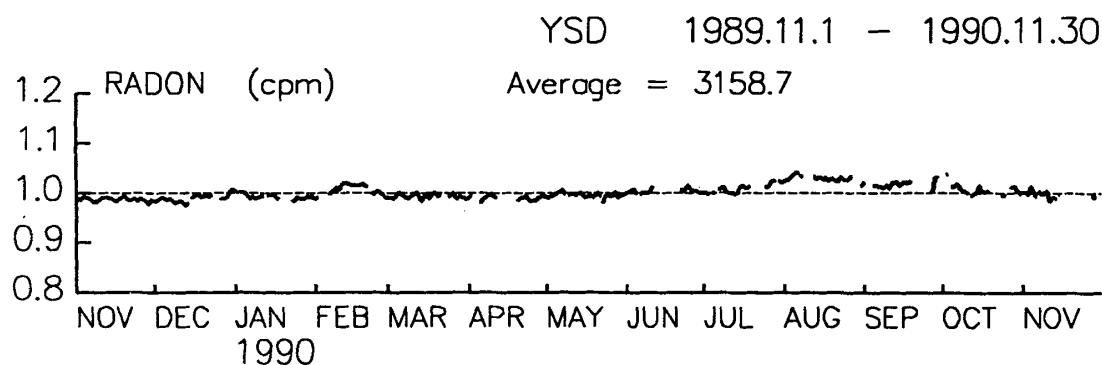
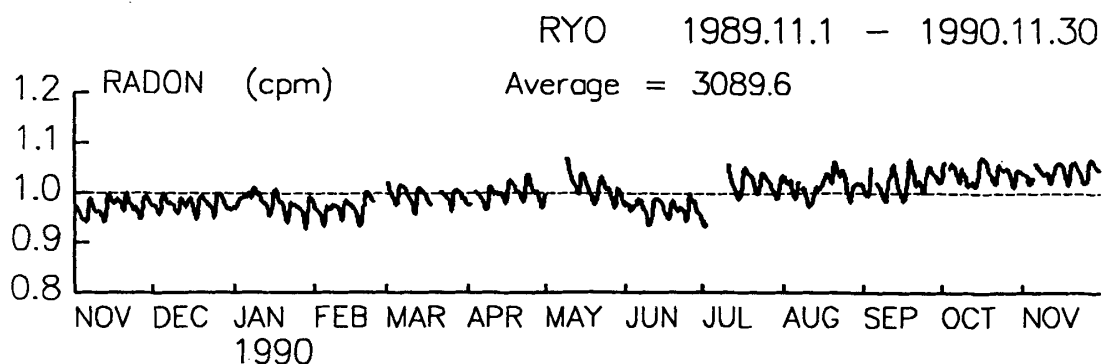
参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：東海地方におけるラドン観測(Ⅳ)，連絡会報，43 (1990)，402-403.



第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Tokai district (RYO: Ryuyo, YSD: Yoshida and OMZ: Omaezaki).



第2図 RYO (竜洋), YSD (吉田), OMZ (御前崎) における地下水中のラドン濃度の変化 (1989年11月～1990年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at RYO (Ryuyo), YSD (Yoshida) and OMZ (Omaezaki) (November 1989 – November 1990).